

U40 建築賞



設計担当者

佐藤達保

大阪府建築士会

戸建て住宅／大阪府大阪市

台地のFORTE

構造 | 木造

階数 | 地上2階

敷地面積 | 185.69㎡

建築面積 | 67.12㎡

延べ面積 | 106.30㎡

竣工 | 平成30年7月18日



1



4



2



3

- 2階リビング。大型木製引戸を全開にするとテラスと連続した半屋外的な「台地のてっぺん」となる
- 南側外観。上野台地の形状をそのままボリューム化した。外壁はメーカーと協働でディテールを開発
- 2階夕景。ダイニング方向をみる
- 1階和室、トオリ土間、寝室、ウォークインクローゼットは回遊動線で繋がる



1階平面図

2階平面図

選評

大阪上町台地は大阪という都市の歴史をかたちづかった場所。そのエッジに立つ小さな家は、まるで城塞のようだった。

8mもの擁壁の上にさらに擁壁が続くように見せた1階部分の外壁はディテールもこだわった素材。擁壁の中に見立てた1階は、壁の存在による暗さが気持ちを落ち着かせてくれる。2階床は擁壁下から10,650mmの高さになり、西に大きく開いた開口は、夏の暑さが厳しいは

ずだが、都市をシルエットに夕日が沈むのを毎日見ることができて、なにものにも代えがたい魅力がある。

2階建ての木造は、構造材の製材とLVLを組み合わせた工法を試みている。インダストリアルウッドと無垢材、構造用金物露出と大工技術の見せ場、それらが混在していて面白い。これらの在り方についてもっと議論がしたいと思った。

床材は岐阜飛騨産の広幅クリ板で、薪ストーブを前にして床板に座って過ごすことが多いとのこと。炎の向こうに見えるここからの夜景は、想像するだけでワクワクする。

風致地区といいながら、なんら「自然の風景などに有る趣き、味わい」を感じさせない周辺の住環境に、こんな考え方をを持った住まいなのだ、城塞のように意思表示している痛快な作品である。
(三澤文子)